令和７年度入学式学長式辞（2025.04.05）

新入生のみなさん。入学おめでとうございます。
鳥取大学を代表して、みなさんの入学をこころよりお祝いし歓迎いたします。コロナパンデミックの時代を考えますと、このように新入生が一堂に会しての入学式が挙行できますことを、本当に嬉しく思います。

鳥取大学は昭和24年、1949年に、鳥取師範学校、鳥取農林専門学校、米子医科大学などを前身校として、新制国立大学としてスタートしました。前身校から数えると、80年から100年の歴史を持っています。

本学は、実学を重視して地域社会が直面する課題に果敢に取り組み、生活の向上と産業の育成を通して、地域に貢献してきました。 地域の課題解決を探求する中から、人類にとって役に立つ、普遍的な知識を見出して、広く世界に発信し、学問の発展と世界の平和や福祉向上にも大きく寄与してきました。鳥取大学の基本理念である「知と実践の融合」は、前身校から受け継がれた鳥取大学の歴史の中から生まれました。

すなわち、実践を通して知識を深め、理論を身につけ、地域から国際社会まで広く社会に貢献するという理念です。
これから、みなさんは大学生活を通した学びの中で、この理念をしっかりと吸収して、自分自身のものとしてほしいと思います。
さて、私たちを取り巻く現代社会に目を向けてみましょう。インターネットを使ったメールやSNSでのコミュニケーションが当たり前となっています。 以前は、紙に手紙を書いて封筒に入れ、切手を貼って郵便で出す。
数日かかって着いた手紙をゆっくりと読んで、返事を考える。一方で、メールは一瞬で地球上のどの場所へも届く、向こうの時間や都合はお構いなし、すぐに返事が来ることを期待される。毎日数十通のメールやラインに追われるようになる。これが本当に便利な、豊かな生活なのでしょうか？私はじっくり考えるという習慣がどんどん失われているように思います。

また、インターネットで効率的な情報収集を図るのが当たり前となっていて、瞬時に調べることができます。ただ、それを鵜呑みにしていませんか？安易な情報が氾濫して、何が真実なのかが見えにくい社会になっています。 特に、複数の情報源が、同じ内容のことを言っていると、間違った情報に洗脳される危険性があり、注意が必要です。今では、ネットだけではなく、新聞やテレビといった既存のマスメディアですら、同じように情報に踊らされる傾向にあります。最近のニュース報道を見ても、何が真実なのかが分かりにくく、私たちも、そして社会も混乱する傾向にあります。

さらに、この混乱の時代に、人工知能AIが身近になっています。 人間が独占してきた、多くの情報を統合してストーリーを生み出すというようなことを、人間の能力を遥かに超えてAIができるようになりました。人間の生活を便利に支えるという本来の姿からかけ離れ、AIに人間がコントロールされるといった可能性も無いとはいえません。 人類とAIの戦争やAIに人類が征服されるというSF物語が、現実の恐怖となって迫ってきています。このITとAIの時代に生きる私たちに必要なものは何でしょうか？

私は、自分で考えることができる力と自分自身のアイデンティティー、あるいは原則：英語では「プリンシプル」と言ってもいいですが、「自分自身の考え」というものを持っているかどうかが重要だと思います。

まず、なるべく多くの公平な情報を収集して、偏見や予断に惑わされず、冷静に判断する姿勢を養ってほしいと思います。

また、レジリエンス、いわゆる「柔軟性」ですね、これが重要です。そしてコモンセンス、良識に基づいたバランス感覚も必要です。難しいことですが、これらは意識して求めないと決して得られないものです。

皆さんにとって重要な自分自身のプリンシプル、「自分の考え」を作る、そして次に、柔軟な思考性を養っていくためには、何が必要かということです。

皆さんは、リベラルアーツという言葉を知っていますか？

「実用的な目的から離れた純粋な教養」、あるいは「一般教養」のことです。大学では、各学部で学ぶ専門教育が重要であり、皆さんが、将来生きていくための原動力になることは間違いありません。では、歴史や文学、芸術などの教養教育はどんな意味があるのでしょうか？私は、一般教養は人間の幅を広げるためや、豊かな生活を送っていく上で、重要であり欠かせないものではないかと考えています。

人は1人では生きていくことはできません。人と人とを結ぶコミュニケーションや友情や愛情を彩るものとして教養は大事です。自身の考えや、思考の柔軟性を鍛えるためにも重要です。いつでも教養は身につけることができますが、若くて思考に柔軟性があり、時間に余裕がある大学時代がチャンスです。多くの本、絵や書などの芸術作品、演劇、映画、音楽に触れて感性を養ってください。

もう一つ、最近の新型コロナ感染症のパンデミックの3年間の中で、 深く考えさせられたことをお話しします。

皆さんは、中学生から高校生であったでしょうか。私は、コロナの3年間は医学部附属病院の病院長でした。感染症について、コロナ前は、エボラ出血熱など一部に怖い病気があるものの、人類は感染症をほぼ克服してパンデミックはないとたかを括っていました。

ところが、COVID19と呼ばれるウイルスによる呼吸器感染症は、予想以上に感染力が強く、瞬く間に世界中に広がっていき、重症化しました。 実に世界で600万人以上の人が亡くなっています。
社会生活は大混乱となって、外出や移動制限が出て、商店や飲食店は休業に追い込まれ、リモートワークが強いられ、感染者への非難や差別があり、病院では入院患者への面会制限や医療従事者のオーバーワークによる病院機能のマヒが起こりました。

まさに、当たり前であった日常生活がいとも簡単に崩壊することを目の当たりにしたのです。皆さんも多くの不便を強いられ、不安や悲しい思いをされたことでしょう。
治療薬やワクチンの開発は遅れ、医療機関では、感染者が溢れ、重症患者が増えすぎて、通常の医療活動が難しくなりました。多くの病院で手術や、入院を中止しました。幸い鳥大病院は手術を止めることはありませんでしたが、病棟の一部閉鎖や外来を縮小しました。

結局のところ、主要な防御手段は、マスクや手洗いなどの衛生行動と感染者の隔離という社会的距離の確保でした。これは、100年以上前のスペインかぜの大流行の時と同じです。現代の医療と科学の無力さを思い知った事態でした。この時も、ネットやマスコミの情報は錯綜して、決して正しいものばかりではなく、PCR検査は意味がないと言う人もあり、本末転倒の議論も多く見られました。何が本当か、社会的に優先する事項は何かが見えなくなりました。
また、病気や死への恐怖の前に、人々は冷静な思考力を失って、感染者や医療者への偏見や差別が横行していました。
この、混乱の時代に私が直面したのは、患者さんと医療従事者のためにいかに病院を守るかという課題です。 日々、重要な決断を迫られました。社会が混乱して極限的な状況にある医療現場で、人の尊厳を守り、人への思いやりや暖かさを維持することを心がけました。
そこでも、プリンシプル最重要事項は何かということ、レジリエンス柔軟に考えること、医学的コモンセンスやバランス感覚の重要性を感じました。ぜひ皆さん、学生時代から自分で考える習慣を身につけてください。社会が混乱した時に、自分自身を見失わない信念と柔軟性を養ってほしいと思います。

最後に、皆さんは今日から鳥取大学生になったわけですから、大学の一員であり主役です。
そこで、大学の使命についてお話しします。私は、国立大学は社会的共通資本であると考えています。社会的共通資本とは、「一つの国ないし特定の地域に住む全ての人が豊かな経済生活を営み、優れた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的安定的に維持することを可能とするような社会的装置」です。これは、日本人でノーベル経済学賞に最も近いといわれた米子市出身の経済学者・宇沢弘文先生が唱えられた理論です。大学の役割の一つは、この地域の人々、ひいては国民が、優れた文化を享受して豊かな経済生活を送ることに貢献することです。

この4月から、鳥取大学では地域未来共創センターという地方創生の拠点をスタートさせます。このセンターでは、皆さん学生や教職員が地域の方々と一緒に地域の活性化について考えたり、新しい会社や産業を起業したり、レカレント教育と言って社会人の学び直しを助ける取り組みなどを行います。ぜひ新入生の皆さんにも、学部を問わず地域に飛び出して、住民の方と地域の課題を解決する中で自分自身の可能性を見出していってほしいと思います。
大学の理念である「知と実践の融合」の取り組みそのものです。

その中でも、ぜひやってほしいことがあります。それは、学生時代にベンチャーやスタートアップなどの起業にチャレンジして欲しいということです。日本でイノベーションが生まれないのは、大学の研究者や学生からスタートアップが出ないことにあると言われています。学生生活を通して、勉強やクラブ、アルバイトなどいろんな機会に浮かんだアイデアを磨いて、世の中のためになるものは、是非起業に結びつけてください。必ず成功すると思わなくていいです。赤ちゃんの頃、歩くまでに何度転びましたか。転ぶこと、つまり失敗を繰り返して学んで来たはずです。大切なのは小さな失敗。失敗を恐れないでください。鳥取大学は、傷つきながらも立ち上がり、力強く前に進んでいくあなたたちを応援します。

最後に、皆さんが、ここ鳥取の地で学生生活を楽しく、有意義に過ごし、一生の中でかけがえの無い時間、忘れられない学生時代となることを願ってお祝いの言葉とします。

令和7年4月5日
鳥取大学長　原田　省